

議事要旨

第2回千葉県移動性向上プロジェクト委員会

開催日時： 平成17年12月16日（金）10:30～12:00

開催場所： ぱ・る・るプラザ千葉 6階「樺1」

委員会出席者： 千葉工業大学 工学部 建築都市環境学科 教授 赤羽 弘和（委員長）  
千葉県警察本部 交通部 交通企画課理事官 高橋 誠（代理出席）  
千葉県警察本部 交通部 交通規制課理事官 嶋田 英明（代理出席）  
社団法人 千葉県バス協会 常務理事 加藤 廣  
千葉日報社 取締役業務局長 川名 親  
千葉県 県土整備部 道路計画課企画調整室長 金澤 和信（代理出席）  
千葉市 建設局 道路部長 井上 直人  
首都国道事務所 副所長 小椋 公之（代理出席）  
東京湾岸道路調査事務所 事務所長 石川 直幸  
千葉国道事務所 事務所長 有田 幸司

（敬称略）

- |      |  |
|------|--|
| 委員 A | ・各箇所、渋滞の生じている方向を検討することが重要である。また、休日、平日の差異にも着目して検討をお願いしたい。   |
| 委員 A | ・パブリックコメントは大変重要である。一般市民の実感と客観データとの違いについてもよく考察していくことは意味あることである。   |
| 委員 A | ・今年度の抽出箇所の中で、1つか2つは中長期的対策ばかりでなく、1～2年の短期的対策での対応で効果が出そうなものにも着目して箇所選定していくべきである。   |
| 委員 A | ・対応策がすぐにはできない箇所については、なぜできないか、ということも含めて、県民へ開示していただきたい。  |
| 委員 B | ・バスの運行上からも、今回の暫定箇所案はうまく認識してポイントを捕まえていると評価したい。具体的に言えば呼塚交差点などもその一つと認識している。   |
| 委員 A | ・プローブデータだけでは、その交差点だけがネックであると判定できないこともある。鉄道跨線橋のサグで速度が落ちているとか、交差点の左折能力の不足のために直進が阻害されているとか、郊外型の大型店舗への待ち車のために直進が阻害されているとか、現地の情報も合わせて対応策を考えていくべきである。  |
| 委員 A | ・パブリックコメントの実施においては、暫定21箇所から選んでもらうのではなく、幅広く自由意見を募るようにすべきである。また、ホームページ上でこの意見募集後の全体のスケジュール、結果の公表方法を示すことも検討してほしい。                                    |
| 委員 A | ・パブリックコメントの質問として方向別、時間帯、休日平日の別も問うべきである。また、主道路側が問題なのか従道路側が問題なのかも分かるように整理すべきである。真のボトルネックがどこかを捉えるのは簡単ではない。上流から下流に向かって低速度交通が普通速度に切り替わるところがボトルネックである。 |
| 委員 C | ・パブリックコメントにおいて、一般県民の考える走りにくい箇所をそれぞれ5箇所くらい挙げていただき、地域毎の条件の差を掴む必要がある。絶対値の大きさでは東葛ということになるが、速度、渋滞といっても都市部と地方部では地域により感じ方が異なるであろう。                      |
| 事務局  | ・本日頂いた貴重なご意見を参考にさせていただいて、パブリックコメントや次回以降の進め方へ反映させていただきます。   |